

### すみれの会記録

- 1 日時：平成23年10月28日（金）18：30～20：30
- 2 会場：浦和コミュニティーセンター
- 3 内容

◆市川篤史 先生（北本市立西小学校）

「協同的な学びを大切にした総合的な学習の時間」

～トマトが子どもの思いと地域をつなぎ、まちおこしへと発展！～

（第5学年 総合的な学習の時間）

- ・「北本トマトでまちおこし～MADE IN KITAMOTO～」の実践から  
＜協同的な学びを形成する2つの対象＞  
○協同するための学習対象（学習材となる人・もの・こと）  
→学習対象へのかかわりが課題を生み、やがて自分と他者を結び付ける目的となっ  
ていくもの。  
○協同していく仲間という対象（学級・学年の友達、他学年の子ども、教師、保護者、  
専門家を含めた地域の人々等、自分を取り巻く多様な他者）  
→学習対象に向かって仲間同士が互いに働きかけ合うことが重要。仲間と取り組む  
＝一人ではできないダイナミックな活動ができるということ。

他者と協同して問題を解決しようとする学習活動とは、互いに教え合い学び合う活動や  
地域の人との意見交換や交流活動等である。これらの学習活動を行うことで、子どもは、  
①多様な情報を活用し、異なる視点から考えることができ、②同方向に進む仲間との結  
び付きも強くなる。

→課題の整理の仕方、なぜこのように活動が広がっていったのかについての分析の必  
要性、担任をもっていなくてもできる総合の在り方について意見を交換した。

◆堀謙作 先生（伊奈町立小室小学校）

「お米をのぞいてみよう」（第5学年 総合的な学習の時間）

※食育の研究指定を受けたときに設定された活動を継続して行っている。

※町の産業振興課、農家、JAの婦人部等との連携をしている。（決められた連携）

- ・活動計画が探究的な活動を通したものになっていない。  
→子ども達の思いにどのように乗っけていくか。例えば、米を育てている間の課題に  
ついて、米から派生した課題（田んぼの生き物について、米を使った料理について  
等）について子ども達が探究していけばよいのではないか。全員が一律で同じ活動  
をする必要はない。何か他のものを追究するようなグループがあってもよい。
- ・地域の思いや願いを組み込んでいく。  
→町の産業振興課、農家、JAの婦人部等との連携をしながら、地域の人々の思いや願  
いについても受け取れるような学習活動にしていく。

環境は整っている。

枠が予め決まっている。

} その中身を総合の趣旨に沿って変えていくとよい。

- ◆小川聖子先生（行田市立東小学校長）、齋藤博伸先生（埼玉大学教育学部附属小学校）  
より、埼玉県小学校教育課程指導実践事例集の生活科と総合について、若村（埼玉大  
学教育学部附属小学校）よりさいたま市小学校教育課程指導実践事例集の生活科につ  
いての資料提供がありました。また、若手会長より、総合的な学習の時間の授業づく  
りにおいて、①人とのつながり、②どんな力を身に付けさせたいのかはっきりさせる  
こと、③どのように地域を巻き込んでいくのか、地域とのつながりを大切にしていく  
という指導講評をいただきました。

（文責：若村 健一）

